

目標の設定及び達成に向けた考え方について(区作成)

【 港 区】(受託者等:)

| | | 区の考え方等 | |
|--------------------|------------------------------|---|--|
| 1 地域課題・ニーズ等の状況について | | 社会環境の変化によりコミュニティの希薄化が懸念されており、住民どうしが生活課題等の解決に協力して取り組むための豊かなコミュニティづくりが必要。そのためには、地域の自律的運営に携わる新たな担い手や活動に必要な財源を確保するとともに、NPOや企業などの多様な活動主体と連携協働を進めていく必要がある。 | |
| | | 少子高齢化や核家族化などが進むなかで、高齢者の一人暮らしや・子育ての環境など社会環境が大きく変化し、それに伴い課題も生まれてきている。それらの課題解決のためには、地域における見守り体制の構築とともに、多様な世代間交流ができる居場所づくりが必要である。 | |
| | | 地域活動協議会の認知度を高めるとともに地域活動協議会による自律的な地域運営が進むよう、準行政的機能への理解や総意形成機能の充実を図る必要がある。 | |
| 2 当事業によりめざす状態 | | 地域課題を共有しながら、各種地域団体や企業、NPO等、多様な主体が、地域社会の将来像を共有しながら地域の多様な意見を的確に反映し、活動内容の透明性を確保しつつ、各主体がその特性を發揮し、さまざまな地域課題に取り組む自律的な地域運営が行われている | 【現在の状況】 ・達成状況:概ね5割程度達成 ・説明:11地域の取組状態の総合評価と自律度の結果より(総合評価◎◎で自律度Aの項目の割合) |
| | | | 【現在の状況】 ・達成状況:概ね〇割程度達成 ・説明: |
| 3 当事業の目標 | | | |
| (1) 中長期の目標 | | ステージ1の項目は全て達成(「法人格の取得」「地域公共人材の活用」を除く) 「Ⅰ 地域課題への取組」「Ⅱ つながりの拡充」については平成29年度期末評価時点より自律度の向上 「Ⅲ 組織運営」については自律度A(大抵のことはまちづくりセンター等の支援がなくとも取組ができる状態)達成 | 【現在の状況】 ステージ1は全地域達成(「法人格の取得」と「地域公共人材の活用」除く ⅠⅡについて、1項目でも自律度が向上した地域は3地域、Ⅲの全項目について自律度A達成の地域は1地域 |
| | | ・ステージ2の項目は全て達成(「法人格の取得」「地域公共人材の活用」を除く)のうえ、平成29年度期末評価時点より自律度の向上 ・ステージ3の項目は各項目について、平成29年度期末評価時点よりステージ及び自律度の向上 | 【現在の状況】 達成している地域はない。ステージ2について、9割以上達成している地域が2地域ある。ステージ3についてステージ及び自律度が向上した地域は1地域。 |
| | | | 【現在の状況】 |
| (2) 平成30年度目標 | | | |
| | ア「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」 | 全地域活動協議会について、ステージ1の項目を全て達成の他、平成29年度期末評価時点より自律度の向上(但し、「Ⅲ組織運営」は自律度A達成) ステージ2の項目は全て達成の他、平成29年度期末評価時点より自律度の向上 ステージ3の項目は平成29年度期末評価時点より各項目についてステージおよび自律度の向上 | 【現在の状況】 ・ステージ1 達成:11地域、未達成:0地域 ・ステージ2 達成:0地域、未達成:11地域 ・ステージ3 達成:1地域、未達成:10地域 |

| | | 区の考え方等 | |
|---|---|--|---|
| | イ 利用者アンケート調査 | | |
| | (ア) 自律的な地域運営 | 校区等地域において、様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている割合 60%以上 | 【現在の状況】 まちづくりセンターの支援により、皆さんの地域において、支援を受ける前よりも自律的な地域運営に取り組んでいると思いますか。(問4) 71.1%(①そう思う 33.3% + ②ややそう思う 37.8%) |
| | (イ) 中間支援組織の活用 | 地域活動協議会が課題やニーズに応じて中間支援組織から支援を受けていると感じている割合 70%以上 | 【現在の状況】 まちづくりセンターの支援は、地域の皆さんの活動に役に立ちましたか。(問1) 88.6%(①そう思う 42.9% + ②ややそう思う 45.7%) |
| 4 | 地域活動協議会の状況についての分析 上記2・3の【現在の状況】及び評価資料等を踏まえ分析 | 全ての地域活動協議会が、「地域課題への取組」「つながりの拡充」「組織運営」についていずれもステージ1を達成している(法人格の取得、地域公共人財の活用を除く)。ステージ2の各項目のうち、目標とする10項目をすべて達成している地域はないが、完了している地域を含め、概ね順調に取組が進んでいる。 また、地域活動協議会内外の連携・協働については、すべての地域でステージ2、3の取組が進められており、完了もしくは概ね順調以外の地域でも少しずつではあるがステージアップが図られている。 | |
| 5 | 当事業による支援の方針 | 自主財源確保の取組み、地活協を構成する活動主体同士や地活協と他の活動主体との連携・協働、多様な媒体による広報活動などの取組みがあまり進んでいない地域について、地域の自律的な運営レベルや地域実情に応じて、地域がそれぞれの課題解決を行いながらステップアップできるよう支援する。 高齢者食事サービスから地域食堂への事業再構築により、新たな担い手の確保につながった事例や行政の委託事業の受託、イベントへの模擬店出店、助成金の活用などの自主財源の確保策など、ヒト・モノ・カネの有効活用について取組事例が蓄積されてきていることから、情報交換会などを開催し、取組みに関心のある地活協に対してその地域の実情に合った取組みの支援を進める。 地活協形成の基盤となる組織運営(議決機関の運営、会計事務の執行、広報活動)について自律度を高めるための支援を行う。 | |
| 6 | 目標達成に向けた戦略 | 地域の現状や課題を分析し、地域の運営レベルや地域実情に応じた支援の重点計画を地域ごとに作成して支援を行う。 区内の地活協における先行的な取組みについて積極的に他の地活協に情報提供を行い、地域実情に応じて、部分的でも取組めるようなアドバイスや支援を行う。 地域活動協議会の認知度を高めるとともに地域活動協議会による自律的な地域運営が進むよう、準行政的機能への理解や総意形成機能の充実を図る必要があるため、運営レベルに合わせた地域ごとの指導や支援等を行う。 | |